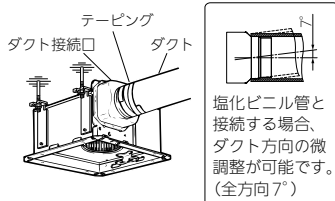


ダクト接続口とダクトを接続する。
●風漏れのないよう市販のアルミテープなどでダクト接続部をテーピングする。

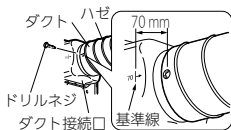
お願い

- ダクト接続口に無理な力加わらないよう注意してください。
(無理な力加わるとシャッター開閉不良や風漏れの原因となります)



ネジでダクトを接続する場合

- (1) 図のように矢印から水平に70mmの位置に市販のドリルネジで固定する。スパイラルダクトでハゼ部が上記70mmの位置にくる場合は、矢印から水平に60mmの位置に固定する。
 - ドリルネジの長さはダクトの種類に合わせ、右表を参照してください。シャッター開閉や固定不良の原因となります。
- (2) 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでネジの頭をテーピングする。



ダクト呼び径 φ150の場合			
ダクト外径(mm)	150(スパイラル)	155~160	165(円筒など)
ネジ 呼び長さ	10	13	19

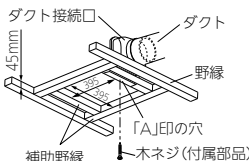
野縁に据付ける場合

野縁の強度が十分でない場合は天吊金具を併用する

(1) 野縁組立

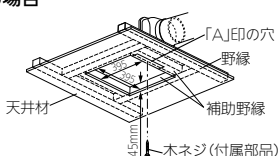
①野縁に本体フランジを据付ける場合

- 図のように野縁の内寸が395mm、野縁高さが45mm以下になるように、4本の補助野縁を使用して据付枠を組む。
(野縁高さが45mmより大きい場合据付けできません)



②天井材の下に本体フランジを据付ける場合

- 図のように野縁の内寸が395mm、野縁高さ+天井材厚さが45mm以下になるように、4本の補助野縁を使用して据付枠を組む。
(野縁高さ+天井材厚さが45mmより大きい場合据付けできません)



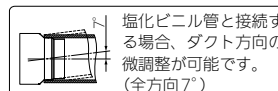
お願い

- 天井がたわまないように、十分強度のある野縁に据付けてください。
- 野縁を組立てる際は、据付穴のピッチと据付穴の詳細図をご確認ください。野縁内寸法が大きいと、木ネジが垂直に打てなくなり、野縁の割れによる固定不具合が発生します。

(2) ダクト接続口の固定

- ダクト接続口をダクトに差し込み、野縁の角の直角に合わせ、すき間がないよう付属の木ネジ1本で仮締めする。(「A」印の穴を使用)

お願い ●複数台を同時に据付ける場合は、「3.外形寸法図」に示す刻印・シャッター仕様のダクト接続口を間違えないように使用してください。

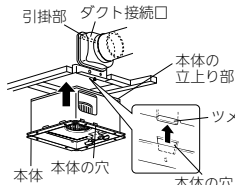


以下、①野縁に本体フランジを据付ける方法を例として記載しています。②天井材の下に本体フランジを据付ける方法については、野縁組立後に天井材を張り同様の手順で据付けてください。

本体の差し込み

- 本体の穴とダクト接続口の内側のツメおよび本体の立上り部とダクト接続口の引掛部がはまり込むように本体とダクト接続口を接続する。

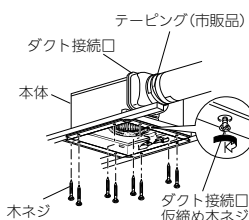
お願い ●羽根を持って本体の据付けを行わないでください。
(本体に羽根があたり、異常音の発生や羽根破損の原因となります)



本体の固定

- (1) 本体がダクト接続口に密着していることを確認してから、付属の木ネジ8本で本体をすき間のないようにしっかり固定する。
(すき間があると風漏れの原因となります)
- (2) ダクト接続口を仮締めしている木ネジ1本を締め付ける。
- (3) 風漏れのないよう市販のアルミテープなどでダクト接続部をテーピングする。

お願い ●ダクト接続をネジで行う場合はネジでダクトを接続する場合を参照してください。



4 電気工事



警告

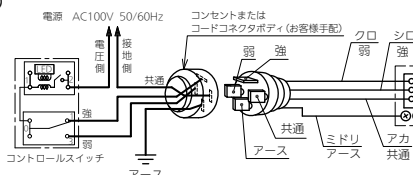
- 電気工事の際、裸線に接触しない感電の原因。

電線同士の接続や接地工事を行う場合は電気工事士の方が「電気設備に関する技術基準を定める省令(および同解説)」および「内線規程」に従い実施してください。

お願い

- 結線間違いや異電圧印加などの誤結線を行いますとモーターが故障します。
誤結線によるモーター故障の場合、サービス費用(交換部品代含む)はお客様の負担となりますので結線図を十分ご確認ください。電圧の確認や電気配線の識別を実施の上、結線してください。

■結線図(太線部分を結線する)



■適応コントロールスイッチ

コントロールスイッチ	
形名	定格
P-04SW ₂	4A-AC300V

- コントロールスイッチ(ランプ付)の仕様により、「強」・「弱」切替えてランプの点灯が薄くなったりちらついたりすることがありますが異常ではありません。

■電圧の確認

- 線間電圧が表の電圧であることを確認してください。

		線間電圧(V)	
スイッチ	測定部	共通-強	共通-弱
	切	0	0
入-強	入-強	100	0
	入-弱	0	100

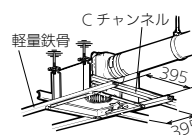
■結線方法

1. 電源コード先端には、3極接地形差込プラグ(7A、125V、WF5415相当)が取付けられていますので同形のコンセントまたはコードコネクタボディを設置する。
2. 電源プラグをコンセントまたはコードコネクタボディに差し込む。

お願い ●電源電線は本体上部のモーターに接触しないようにしてください。

5 軽量鉄骨を組む

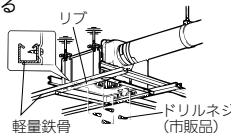
軽量鉄骨と開口部補強用のCチャンネルで内寸が395mmになるよう据付枠を組む。



6 本体の固定(メンテナンスができるよう固定)

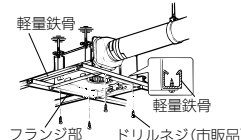
軽量鉄骨がダクト配管と平行な場合

本体内部のリップ(4か所)を利用し、市販のドリルネジ4本で本体を軽量鉄骨に固定する



軽量鉄骨がダクト配管と垂直な場合

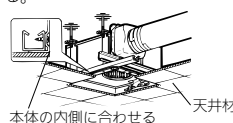
本体フランジ部の据付穴を利用し、市販のドリルネジ4本で本体を軽量鉄骨に固定する。



7 天井材を張る

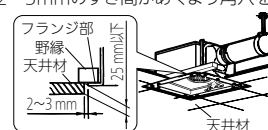
本体を軽量鉄骨に据付ける場合

- (1) 天井材を張る。
- (2) 本体の内寸法に合わせ、天井材に角穴を開ける。



本体を野縁に据付ける場合

- (1) 天井材を張る。
- (2) 本体のフランジ部分と天井材は必ず2~3mmのすき間があくよう角穴をあける。

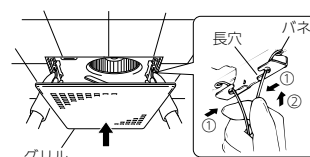


お願い ●本体固定の際は本体と天井のすき間のないように固定してください。
(すき間があると風漏れの原因となります)

●天井材の厚さは25mm以下で据付けてください。(グリルが天井材に密着しない場合があります)

8 グリルの据付け

- (1) グリルのパネを指先で縮め長穴に差し込む。
パネは本体側へ片側ずつ差し込むとスムーズに据付けられます。
- (2) 手を放し軽くグリルを押し上げ天井材に密着させる。



5.試運転およびお客様への説明

- コントロールスイッチの切/入、強/弱切り替えが正しくできるか確認してください。
- 異常な音や振動がないか確認してください。

お客様への説明	別冊の取扱説明書に従って、正しい使い方をお客様、発注者(オーナー、ゼネコン)または管理者に説明してください。
---------	--

6.修理を依頼する前に

■試運転時に、次のような症状があれば点検してください。

こんなとき	原因	点検・処置
電源スイッチを「入」にしても羽根が回転しない 強/弱どちらか動かない	分電盤のブレーカーが「切」になっている	ブレーカーを「入」にする
	正しく結線されていない	結線を確認する(スイッチ部/電源線接続部) ※換気扇にAC100Vが供給されていることを確認する ※「共通」への結線が正しく接続されていることを確認する ※「4.電気工事」の電圧チェック表を確認する
	本体・グリルが確実に据付けられていない 羽根・グリルに異物が付着している 本体の固定(天吊金具・ネジ止め)が弱い 換気風路の抵抗が大きい(ガラリ・アンダーカット) 換気風路の抵抗が大きい(ダクト配管) 換気風路の抵抗が大きい(屋外フード)	正しく据付け直す 異物を取り除く 本体の固定を確認する ガラリ・アンダーカットを開けて給気する ダクトのつづれ、急な曲がりを修正する 屋外フードのほこりを清掃する(特にリフォーム時)
運転中に異常な音や振動がある		

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒竜町1番3号